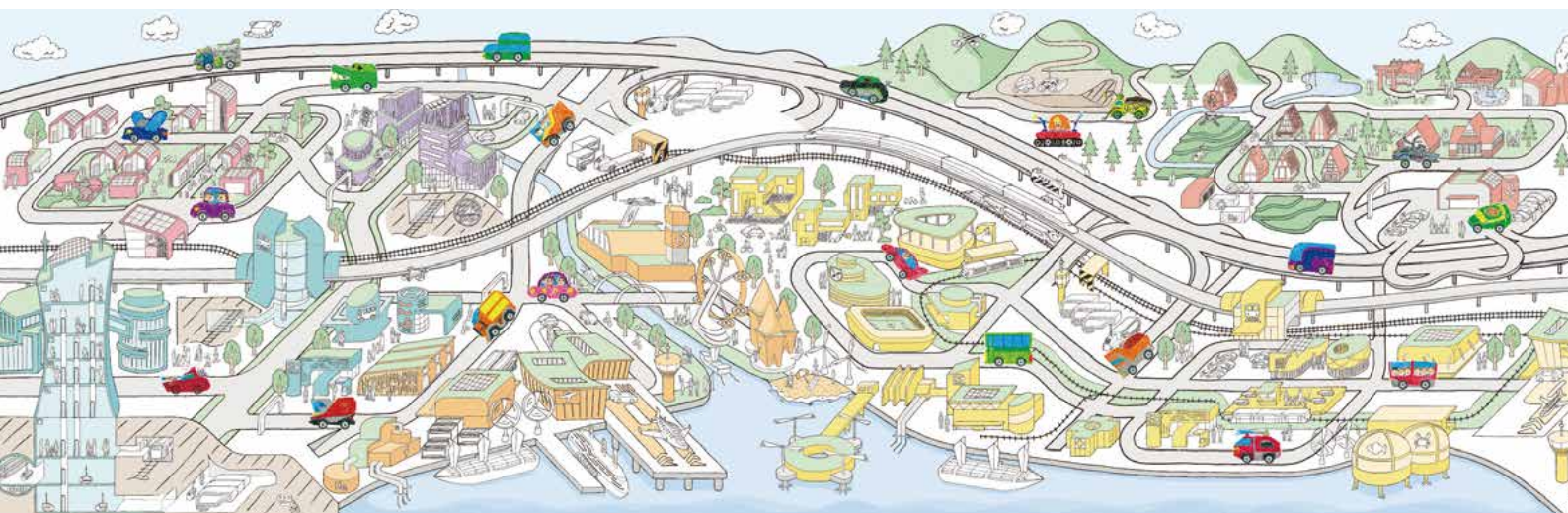
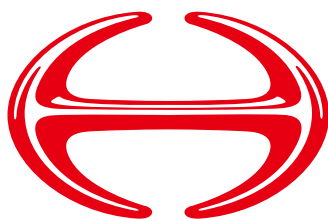


日野自動車株式会社

Corporate Profile



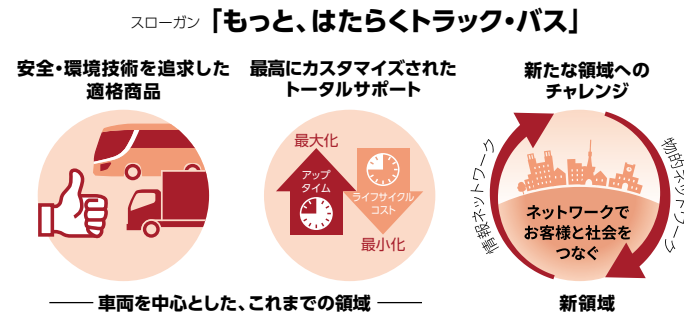
人、そして物の移動を支え、
豊かで住みよい世界と未来に貢献する



HINO

「もっと、はたらくトラック・バス」で お客様に、社会に、価値を提供し続ける

さまざまな技術革新や人々のライフスタイルの多様化に伴い、人や物の移動を取り巻く環境は急速に変化し、お客様のビジネスも変わりつつあります。お客様の求める価値の多様化が進むなか、お客様と社会に価値を創造し続け、必要とされる存在であり続けるために。私たちは「**もっと、はたらくトラック・バス**」をスローガンに掲げ、挑戦を続けています。



そのために注力しているのが、次の3つの方向性です。

自動車業界は長期的な展望のもと、地球環境の保全や交通事故の削減といった社会の課題に取り組んでいます。日野は、社会を支えるトラック・バスメーカーの責務として、これらの課題に先んじて取り組み、「**安全・環境技術を追求めた適格商品**」をタイムリーに提供していかねばならないと考えています。

一方、お客様のニーズは、商品の性能や品質だけでなく、車の稼働率向上や物流の効率化、高齢化やeコマースの拡大によるドライバー不足への対応など、多様化しています。そうしたニーズに応えていくために、ICTも活用し、お客様のトラック・バス

一台一台を常に最適な状態で維持する「**最高にカスタマイズされたトータルサポート**」を目指しています。

さらに、物流や交通の未来像を見据えて、社会全体を視野に入れた「**新たな領域へのチャレンジ**」もはじめています。

時代によって変化のお客様や社会のニーズを的確にとらえ、価値を提供し続けていくために。「HINO」ブランドを支える世界中の「**チームHINO**」が心をひとつにして、絶えず挑戦し、前進していきます。

代表取締役社長
最高経営責任者 **下 義生**

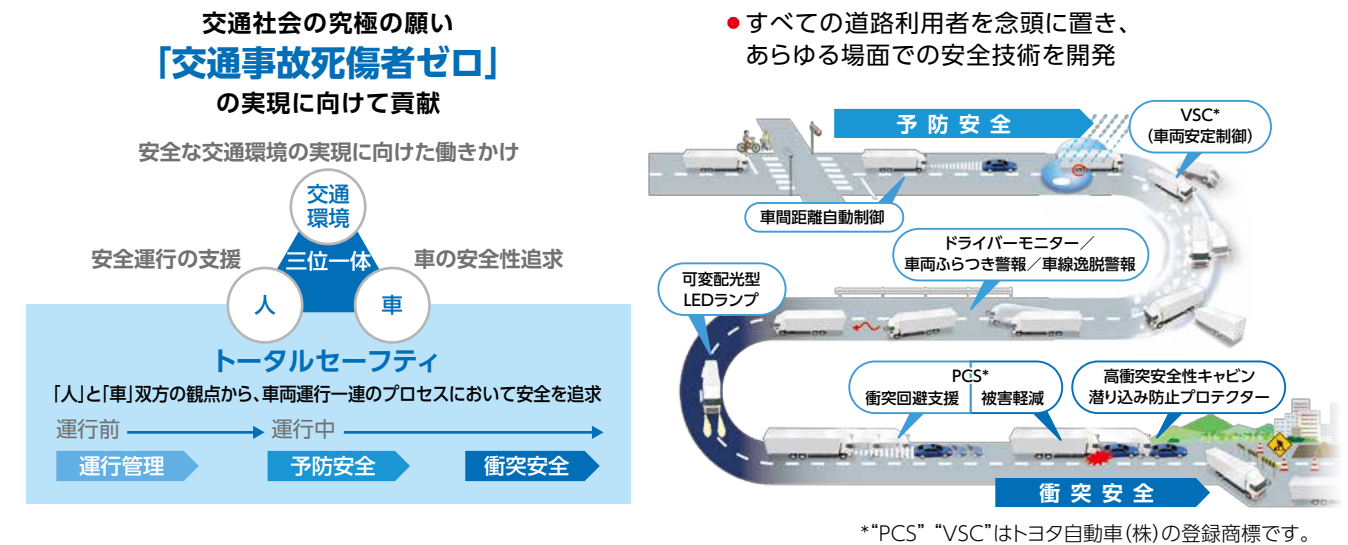


トラック・バスの 安全・環境技術を追求



「交通事故死傷者ゼロ」のために

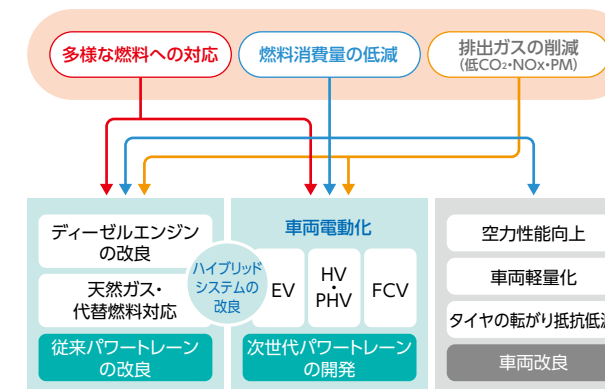
「トラック・バスの交通事故死傷者ゼロ」の安全な社会の実現に向けて、日野は、多様な側面から安全性向上に努めています。「トータルセーフティ」の考えのもと、安全運転のための運行管理から、事故を起こさないための予防安全、もしもの時の衝突安全まで、それぞれの段階において安全性を高めるための取り組みを進めています。また、開発した安全技術を広く普及させることも重要と考え、実用化した技術をいち早く商品に搭載するとともに標準装備化を進めています。



環境技術のフロントランナーとして

日野は、環境問題が注目される以前より、排出ガスのクリーン化や燃費の改善などの技術革新を進めてきました。1991年には、世界初のハイブリッド市販車となる大型路線ハイブリッドバスを発売。2012年からは、小型EV(電気自動車)バス「日野ポンチョ EV」が営業運行しています。クリーンディーゼル、ハイブリッドの環境技術に、さらに磨きをかけるのはもちろんのこと、EVをはじめとする次世代車の技術開発およびその普及にも、積極的に取り組んでいます。

- 目的に応じた幅広い技術を研究・開発



- 小型EVバス「日野ポンチョ EV」



PCS*(Pre-Crash Safety / 衝突被害軽減ブレーキ)
ミリ波レーダーと画像センサーにより前方の車両や歩行者を検知し、自動でブレーキを作用させて衝突被害を軽減するシステム。日野は、トラックの全車種と大型観光バスに標準で装備しています。
*“PCS”はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

お客様のビジネスを支える 「トータルサポート」



故障車への応急処置を行う「ドクターデュトロ」は24時間体制でサポート

トラック・バスの稼働を全面的にサポート

日野は、お客様のもとでトラック・バスがしっかりと働き続け、その役割を全うできるようにきめ細かく支える「トータルサポート」を重視しています。お客様の仕事を止めないことが、社会のインフラである輸送・交通を支えることにつながり、日野が社会に提供できる重要な価値になると考えています。適切な時期の部品交換などにより故障を未然に防ぐ予防整備、万一の際の緊急対応や迅速な修理、より安全でエコな運行のためのサポートなど、あらゆる面においてお客様のビジネスに貢献していきます。



ICTを活用した「HINO CONNECT」

お客様と日野をつなぐコミュニケーションツール「HINO CONNECT」は、車両に搭載した通信端末を通じて、トラック・バスの正常な稼働を支えるためのサービスです。お客様専用のウェブサイトや各種通知機能を備え、万一のトラブル発生時にも適切・迅速に対応します。また、省燃費運転や安全運転のガイドとして活用いただけるレポートも提供しています。収集された車両情報を予防整備の提案に活かすなど、日常の運行から緊急時の対応まで、幅広くお客様の車両をサポートしています。

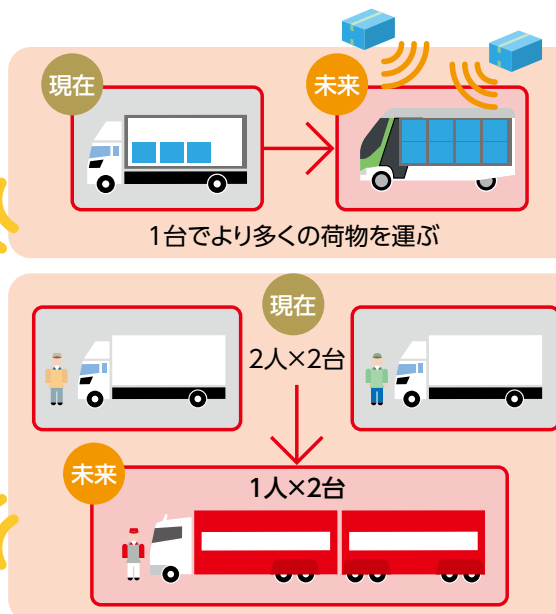
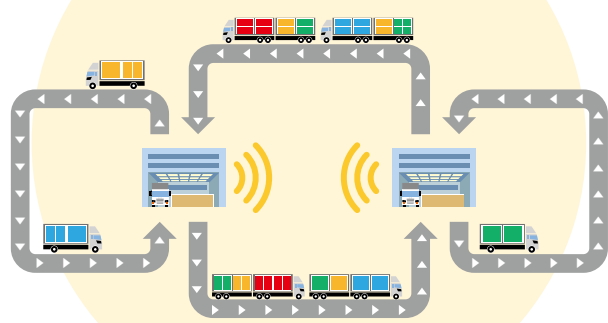


新たな領域へのチャレンジ

商用車を取り巻くニーズは多様化しています。車の稼働率向上や物流の効率化、高齢化やeコマースの拡大によるドライバー不足、移動手段が不足する過疎地の問題など、車だけでなく物流や交通システム全体の課題に及んでいます。日野は、物流や交通の未来像を見据えた新たなチャレンジによって、これらのニーズや課題に応え、もっと、豊かで住みよい世界と未来に貢献していきたいと考えています。

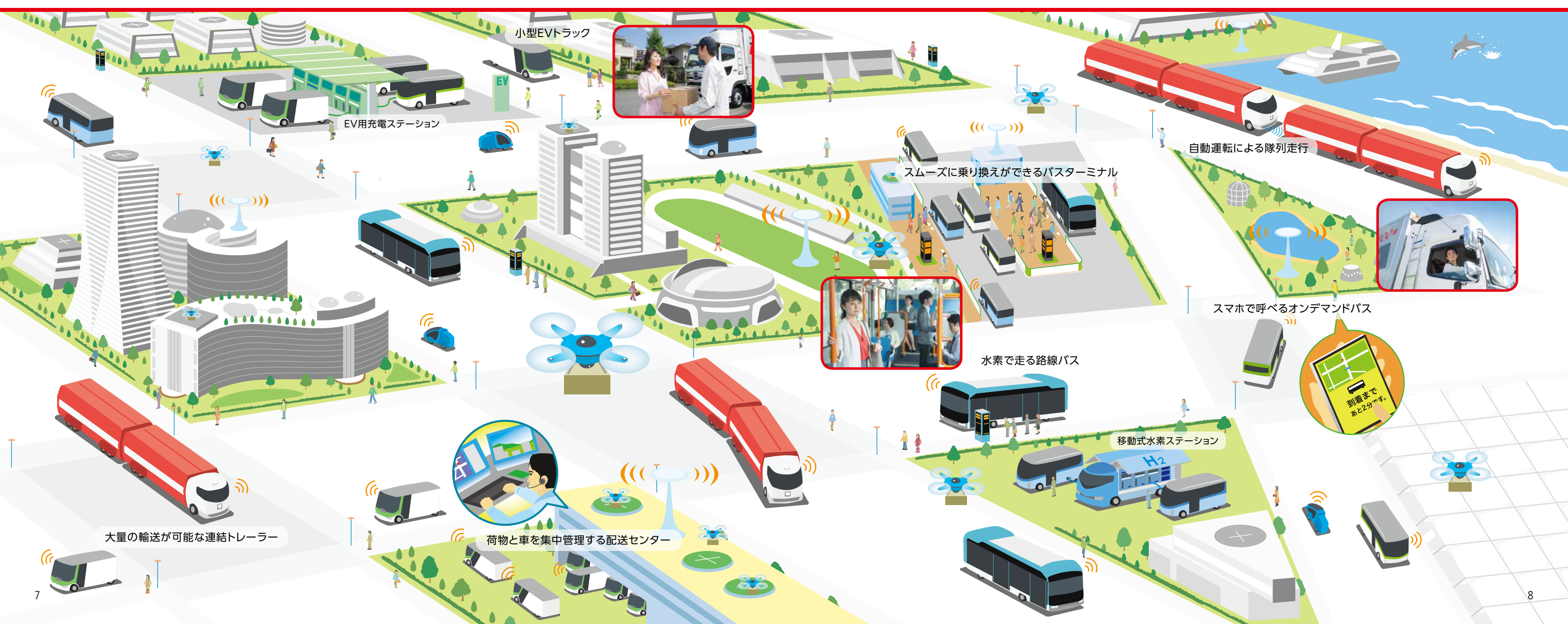
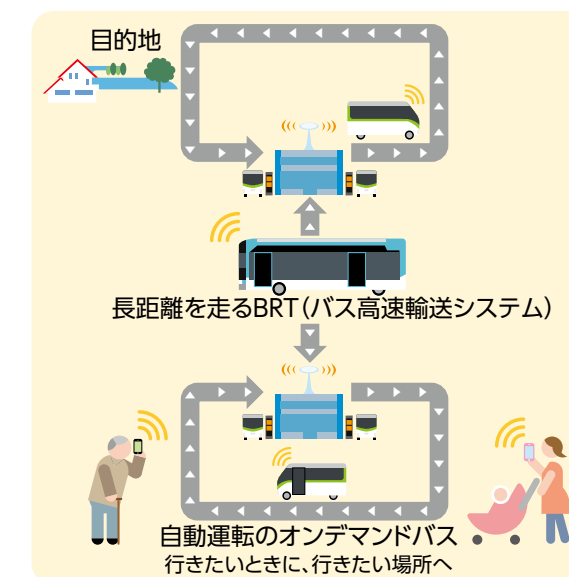
物流全体をコネクティッド

荷物と車、車と車がつながり、輸送をもっと効率化



交通システムをコネクティッド

人と車がつながり、移動をもっと便利に



日野の「ものづくり」と「品質」

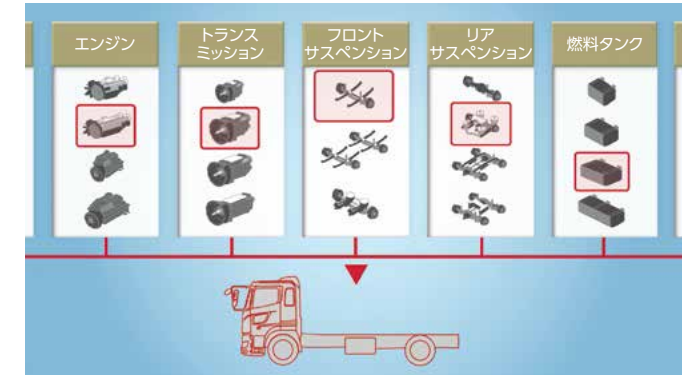


大中型車両生産のマザー工場となる、2017年に本格稼働した茨城県古河工場



「モジュール化」でより早くニーズに対応

商用車は用途によって多種多様な車両の形態があり、お客様のニーズにきめ細かく対応した多品種のラインナップが求められます。日野は、さまざまなニーズに合った商品を世界中のお客様へより早くお届けするために、車両を構成する部品=モジュールをニーズに応じて組み合わせて、1台のトラックをつくりあげる「モジュール化」という考え方を取り入れています。さらに、各モジュールの「コア」と呼ばれる共通部分=基幹部品を日本で集中的に生産し、各市場のニーズに応じた周辺の部品を海外で組み付けることで、いち早くお客様にお届けしています。



部品をニーズに応じて組み合わせる「モジュール化」

生産・供給体制の要「古河工場」

国内生産の中心となるのは、2017年に本格稼働した古河工場です。古河工場は、「多品種少量である商用車を短いリードタイムで生産する」という日野の目指すものづくりを具現化するため、革新的な生産技術・生産ラインを積極的に導入し、量と種類の変動に対応したフレキシブルな生産体制を構築しています。大中型車両生産のマザー工場として、新技術や新工法を導入し、海外の車両工場に展開していく役割も担っていきます。



大中型トラック生産のマザー工場「古河工場」

お客様、社会の安心・安全のための「品質」

日野は「人、そして物の移動を支え、豊かで住みよい世界と未来に貢献する」ことを使命とし、お客様や社会に「安心・安全」と感じていただける価値や品質を提供することが責任であると考えています。

お客様と社会から信頼いただけるトラック・バスメーカーであり続けるために、「お客様第一」と「品質第一」の行動規範のもと、製品の設計・企画、生産準備、調達、生産、販売・アフターサービスのすべてのプロセスにおいて相互連携を図っています。また、さらなる業務改善のためにPDCAのサイクルを回し続け、品質の向上を図ることを品質保証マネジメントの基本としています。

お客様への価値提供

品質の向上・改善



お客様の立場で品質にこだわる
人財の育成

グローバルに展開する「HINO」



北米向けボンネット型トラック「HINO600シリーズ」



重量物運搬用トラック「HINO700シリーズ ZS」

90を超える国・地域で活躍する「HINO」車

日野は、東南アジアやオセアニアでもトップのシェアを争うほか、北米や中南米などの市場における事業も着実に成長させています。現地で組み立てるCKD生産を主とする一方、各国・地域に根ざした製造を目指して、部品の現地調達など生産の現地化を進めています。また、北米市場向けのボンネット型トラックや、鉱山などで使用される最大積載量35トンの重量物運搬専用トラックなど、世界各国・地域の多様なニーズに応える海外専用モデルを投入しています。「HINO」ブランド車は、日本ならではの「ものづくり」の技術力と、お客様のニーズにきめ細かく応える対応力で、世界中で高い評価を得ています。

- 世界中に広がるHINOの海外拠点とディストリビューター



「トータルサポート」を世界中で強化

世界中で「HINO」の車が役割を十分に果たせるように、日野は各地に充実したサポート体制を構築して、日々お客様からのご要望やご相談にお応えしています。このような、お客様に寄り添った質の高い「トータルサポート」は「HINO」ブランドの強みであり、世界中のお客様からご支持をいただいています。より一層「トータルサポート」の充実を図るため、マレーシアにお客様向け試乗・講習施設「Hino Total Support Customer Center」を開設、アラブ首長国連邦に中近東研修センターおよび中東部品デポを設置、パナマに中南米サービス支援拠点を設置するなど、世界中で着実に体制を整えています。



マレーシアのお客様向け試乗・講習施設「Hino Total Support Customer Center」



アラブ首長国連邦の中東部品デポ



パナマの中南米サービス支援拠点



アラブ首長国連邦の中近東研修センター



「チームHINO」と「人づくり」

「チームHINO」の一体感を醸成し、持続可能な成長を目指す

日野の強みはチーム力です。世界中のチームHINOがひとつになって「HINO」ブランドの価値を高め、次の世代に引き継いでいくことで、持続可能な成長を目指しています。

トラック・バスを開発する人、製造する人、販売する人、トータルサポートを提供する人が一体となり連携することで、お客様や社会の期待を上回る商品・サービスを提供し続けるとともに、「世界一過酷なラリー」といわれるダカールラリーに参戦し、チャレンジスピリットと技術力を磨いています。また、ラグビーを通じて地域社会に貢献し、チームHINOの一体感の醸成と企業活動の活性化を図っています。



世界大会

販売部門の海外事業体やパートナーが参加する「日野世界大会(Hino World Conference)」を4年に一度開催。将来ビジョンの共有を図り、情報交換を行っています。



ダカールラリーへの参戦

1991年に日本のトラックメーカーとして初めてダカールラリーに参戦。初参戦以来連続完走を果たし、世界中のお客様やモータースポーツファンと感動を分かち合っています。



ラグビー部「日野レッドドルフィンズ」

1950年の創部以来、当社のフラッグシップスポーツクラブとして活動。より地域に密着し、地域の方々に愛されるラグビー部を目指しています。

「ものづくり」を通じて、自己の成長を図る

日野は、各職場単位で技能訓練、集合研修、日々の実作業による人財育成を行うとともに、全社・グループを横断した認定制度やイベントを実施。「ものづくり」を通じて自己の成長が実感できるしくみを構築しています。



社内技能等級認定制度・全社技能交流会
各職場で必要な技能の習得を浸透させるため、社内技能等級認定制度を導入。習得した技能を競い合う全社技能交流会を毎年開催しています。



日野工業高等学園

日野が運営する企業内訓練校。卒業後は本人の適性を考慮したうえで各部門に正式配属されます。



全国販売会社サービス技術コンクール
全国の販売会社の技術力向上を目的に毎年開催しています。



サービスマスターコース

次世代の国内販売会社を担う中核人財育成プログラム。約1年間の研修で、サービスエンジニアに求められる幅広いスキルを学びます。



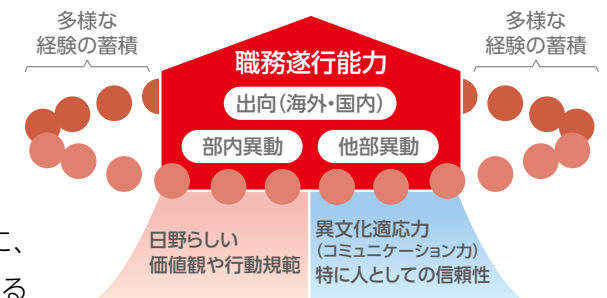
スタッフ小集団活動/
MAST*活動パネル展示会

チーム力を高める小集団活動と職場マネジメントの質の向上を目指すMAST活動の事例を展示することで、活力ある組織づくりに役立てています。

*Management quality Advancement System developed by Toyota group=トヨタグループによる職場マネジメント改善システム

グローバル人財育成と組織的な能力向上のスピードアップ

世界中のお客様に商品・サービスを提供していくために、国を越えた相互交流を活発化し、グローバルに活躍できる人財を育成しています。また、「教え・教えられる職場環境」をつくることで、優秀な人財の持つ知識・ノウハウを幅広い層に広げ、組織的な能力向上のスピードアップを図っています。



階層別研修

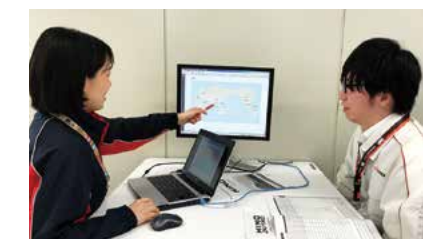
それぞれの階層に期待される役割や能力、および日野らしさ(日野のDNA)を、集合研修や職場での実践を通じて習得していきます。



オール日野TQM*/
グローバル日野QC**大会

社員のほか社外や海外からも大会に参加して、改善活動の成果を発表し合い、日野グループ全体で役立てています。

*Total Quality Management=総合的品質管理
**Quality Control=品質管理



ICT*/海外トレーニー制度

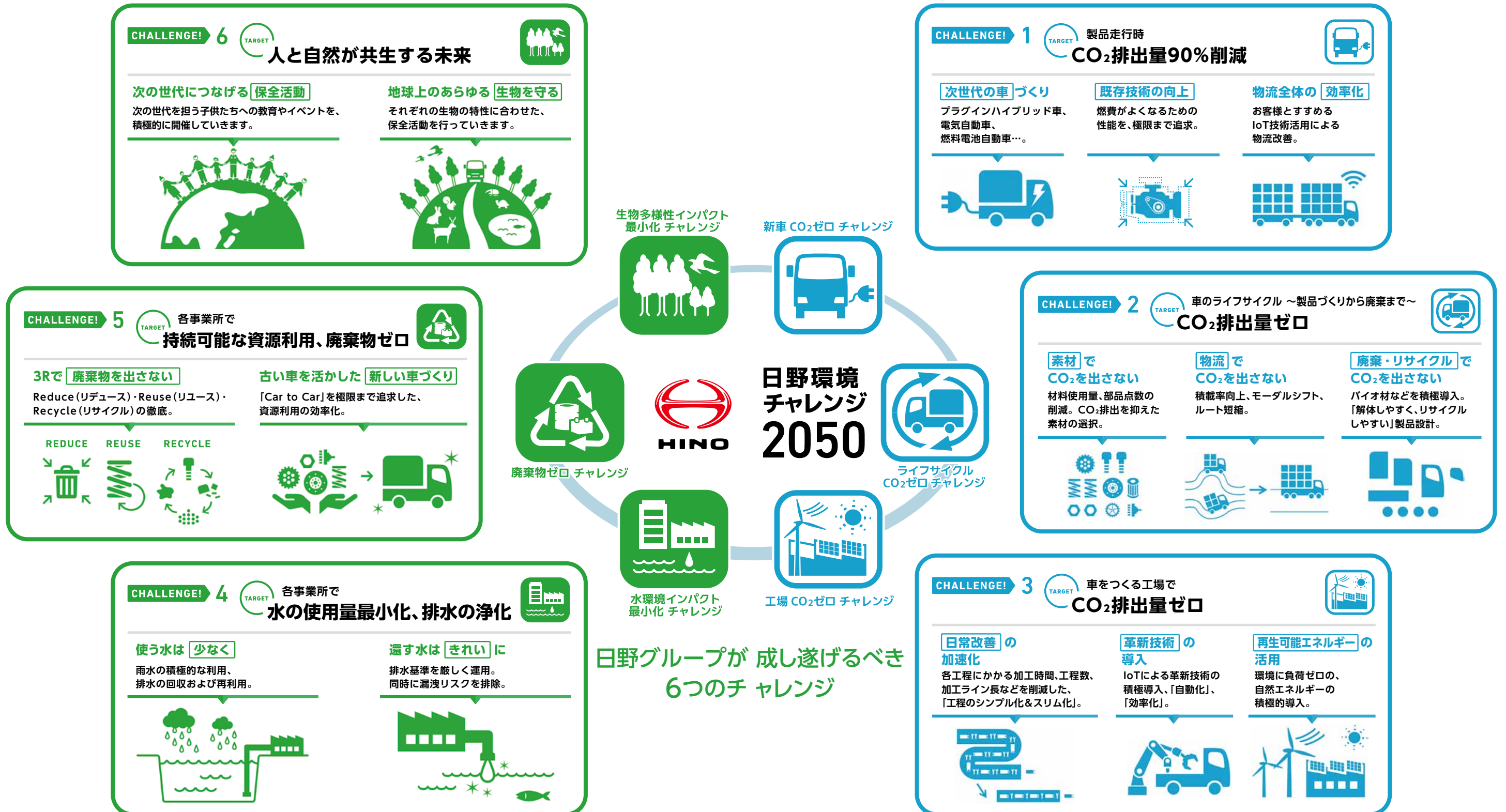
グループ全体でグローバルに活躍できる人財を育成するため、海外から社員を招き入れる一方、日本から若手社員を海外へ派遣しています。

*Intra Company Transfer=企業内転勤

日野環境チャレンジ2050

— 豊かで住みよい世界と未来を次の世代に“つなぐ”ために —

私たちが提供するトラック・バスは、部品や素材をつくる段階から、車両製造、お客様による使用、そして廃棄までの製品ライフサイクル全般で環境に負荷を与えています。この環境負荷を低減し、豊かで住みよい世界と未来を次の世代につなぐため、日野グループ共通のチャレンジ目標として「日野環境チャレンジ2050」を策定しました。非常に高い目標を掲げていますが、製品の技術革新、生産現場におけるものづくり革新、IoT技術などによる物流革新に日野グループ一丸となって取り組み、真の環境先進企業に成長するためにチャレンジします。豊かで住みよい世界と未来を、50年先、100年先の世代につなぐために、日野は環境フロントランナーとして走り続けていきます。



社会貢献

日野は、「人、そして物の移動を支え、豊かで住みよい世界と未来に貢献する」という会社の使命を果たすために事業活動を推進することが、そのまま社会貢献活動につながります。一方で、事業活動以外の社会貢献として、世界中のグループ会社とともに、輸送や移動を通じた災害復興への協力や車両の寄贈、義援金の寄付、文化的な地域行事への参加および支援、人づくりとして地元に着した教育への支援などを行っています。



水不足に悩むタイ北東部へ給水車を寄贈



マレーシアにて教育支援として訓練用車両とエンジンを寄贈



各拠点の周辺にて清掃活動を実施



管理職の有志による小学校への出前授業



日野ラグビー部による子供たちへのラグビー教室



日野グリーンファンドによる環境保全活動の実践・助成

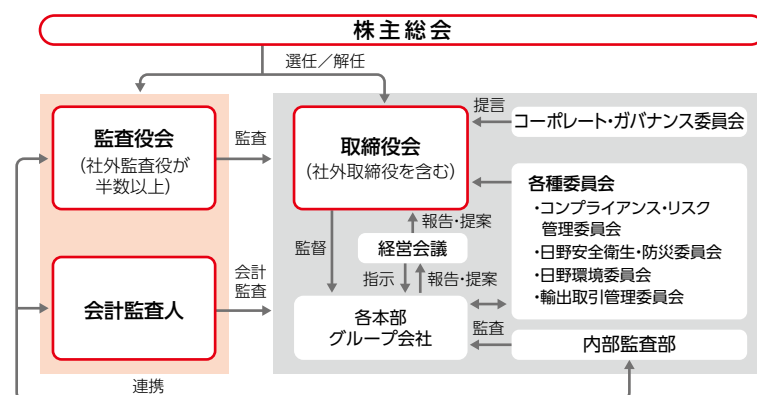
コーポレート・ガバナンス

日野は、株主の皆様やお客様をはじめ、取引先、国際社会・地域社会、従業員などの各ステークホルダーの皆様と良好な関係を築き、グローバル企業として持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指して、コーポレート・ガバナンスの充実を図っています。また、金融商品取引所の規定する「コーポレートガバナンス・コード」に賛同し、その理念や原則の趣旨・精神等を踏まえ、説明責任・透明性の確保や内部通報制度などのさまざまな施策を講じて、コーポレート・ガバナンスの強化に努めています。

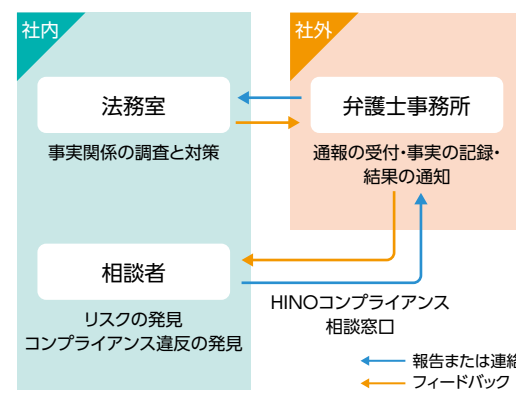


投資家への説明会

●日野自動車のコーポレート・ガバナンス体制図



●内部通報制度



詳細はウェブサイト(www.hino.co.jp/csr/)をご覧ください。

詳細な企業情報については、ウェブサイトをご参照ください。

www.hino.co.jp

日野自動車株式会社

〒191-8660 東京都日野市日野台3丁目1番地1
電話(042)586-5111(大代表)

2018/6

日野自動車株式会社

Corporate Data



会社概要

| | |
|---------|--|
| 会社名 | 日野自動車株式会社 |
| 業務内容 | トラック・バス、小型商用車・乗用車(トヨタ自動車(株)よりの受託車)、各種エンジン、補給部品等の製造 |
| 創業 | 1910年8月1日 |
| 設立 | 1942年5月1日 |
| 代表取締役社長 | 下 義生 |
| 資本金* | 72,717百万円 |
| 従業員数* | 34,548人 |
| 売上高** | 1,815,597百万円 |
| 営業利益** | 54,859百万円 |

* 2020年3月31日時点(連結) ** 2020年3月期(連結)

海外事業体(投資会社)



2020年4月現在

主要製品



日野デュトロ

先進の安全技術を標準装備した、信頼の小型トラック



日野レンジャー

クリーンディーゼルエンジンを搭載した、環境に優しい中型トラック



日野メルファ

人と燃費と環境と、広がるニーズに最適な中型観光バス



日野ポンチョ

軽快に、クリーンに、笑顔のをせる小型ノンステップ路線バス



日野プロフィア

お客様のビジネスを強力にサポート。事故の無い理想の未来を目指した大型トラック



日野セレガ

最先端の安心・安全から生まれる最高のおもてなしを提供する大型観光バス

汎用エンジン



A09

大型トラック、バス用エンジンとして開発し、ダカールラリー車にも搭載



J08

中型トラック、バス用エンジンをベースにして開発

会社の出来事

1910

東京瓦斯工業(株)設立

1942

日野重工業(株)として分社・設立

1962

タイに海外初の販売会社を設立

1959

日野自動車工業(株)と改称

1964

初の海外製造会社をタイに設立

1991

ダカールラリーに初参戦し完走

1994

新シンボルマーク制定



2012

古河工場(茨城県)のノックダウン工場稼働開始

1999

日野自動車工業(株)と日野自動車販売(株)が合併し、日野自動車(株)と改称

2017

古河工場の本格稼働開始

1918

国内初の純国産トラックの生産開始



1950

単車型の大型トラック(TH)・バスを発売

1952

海外(台湾)へ初めてバスを輸出

1991

世界初のディーゼル・電気ハイブリッドバスを発売

1999

トヨタ自動車(株)との共同開発による新小型トラック「日野デュトロ」を製造・発売

2004

北米専用車「HINO600シリーズ」を発売

2007

海外販売台数が国内販売台数を初めて上回る

2009

トラック・バス生産台数、累計300万台達成

2012

「日野ポンチョEV」営業運行開始

2013

ハイブリッドトラック・バスの販売台数累計1万台突破

2017

「日野プロフィア」がグッドデザイン金賞を受賞

2015

モジュール化新商品をインドネシア、タイに導入

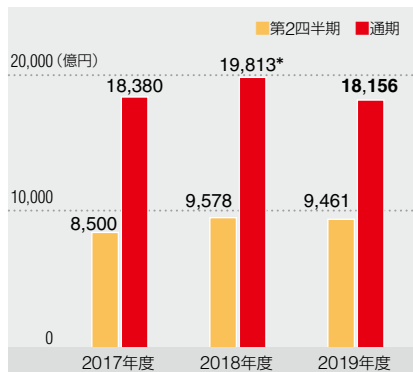
商品に関する出来事



会社業績

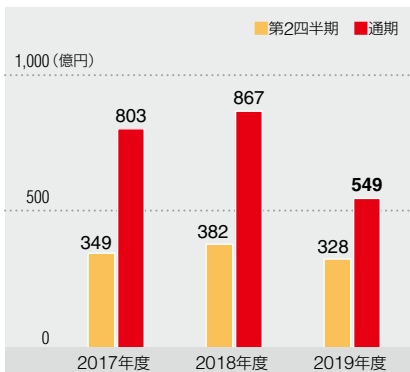
業績の推移

売上高

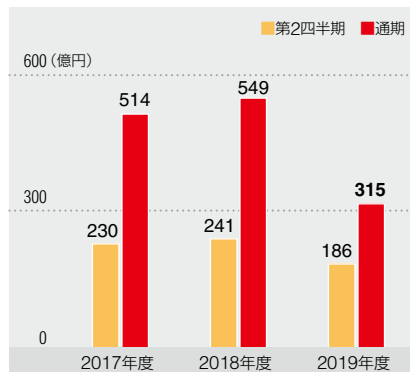


* 過去最高売上高

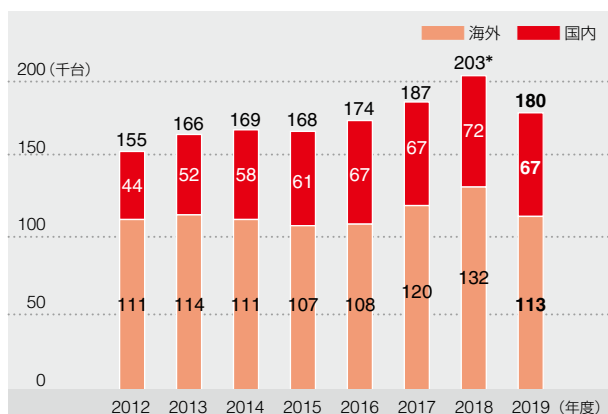
営業利益



親会社株主に帰属する当期純利益

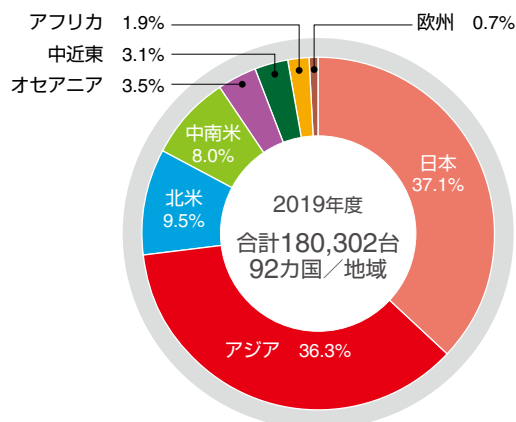


HINOブランド車 グローバル販売台数

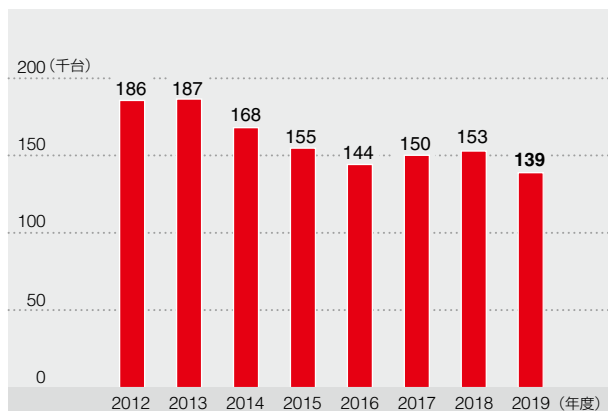


* 過去最高販売台数

地域別販売構成比



トヨタ向け車両生産台数



受託生産車



トヨタ・ランドクルーザー プラド



トヨタ・FJクルーザー

OEM供給車



トヨタ・ダイナ/トイエース 2トンクラス

日野自動車株式会社

〒191-8660 東京都日野市日野台3丁目1番地1

電話 (042) 586-5111 (代表)

<https://www.hino.co.jp/>

2020/6

